



出会いから
はじまる
福祉教育

福祉教育推進事業（出前福祉講座）のご案内

聴覚障がいのある方との交流体験を通して福祉について学習している児童の様子

ふくして？

福祉と聞くと、障がいや高齢者などを支えるというイメージがあるのではないのでしょうか。

福祉というのは、「ふだんのくらしのしあわせ」。障がいなどの有無に関わらず、普段の生活を普通に暮らせることが幸せに繋がる、そのために人と人との思いやりを持ちながら地域で暮らしていくことが大切ではないのでしょうか。

本会の「出前福祉講座」では、福祉豊かなまちを目指し、様々な学習テーマを通して、身近な福祉について考える講座を企画から講師派遣・実施まで、ボランティア団体や関係機関などと協働し、講座に関わる全ての方が福祉について学び合えるようご希望に合わせたコーディネートを行います。

また、本講座は新型コロナウイルス感染予防のため、次ページのような感染対策を行った上で実施いたします。

対象	町内会、学校、一般企業など
費用	無料（ただし、交通費・食費などの協力者に係る実費については、申請団体にてご負担頂きます。）
申込み	実施希望日の2ヵ月前までに別紙『福祉共育推進事業（出前福祉講座）申請書』へ必要事項をご記入の上お申し込みください。
その他	感染予防のために使用する物品（消毒液やマスクなど）については、原則、申請団体でご準備ください。



この事業は赤い羽根共同募金の支援を受けて実施しています。

感染症対策を行った上で実施する講座のイメージ

○講座を行う上での感染症対策

本講座を行う上で、申請団体において次の感染症対策をお願いします。

会場に入入りする際は、
アルコール消毒



風邪症状がある方は、
参加を控える



参加者は、
必ずマスクを着用



当日の参加者名簿を作り、
連絡手段を確保



会場は、こまめに換気



密接になる体験学習
は、控えるよう調整



人と人との間隔を
2m（最低1m）空ける



リモートでの
講座実施も可能



○講座のプログラム（参考：小学校で実施した講座）

講座のテーマ

視力障がいのある方の暮らしを知り、お互い様の地域をつくるためには

授業時間	所要時間	内容	ねらい
1時 限目	10分	オリエンテーション「得意なこと」「苦手なこと」について考える ・児童それぞれの得意なこと、苦手なことを共有 ・児童から出た苦手なことについて他の児童がどんな協力ができるかを考える	<ul style="list-style-type: none"> ・他人事ではなく自分事として考える。 ・様々な人との「違い」を知る。 ・苦手なことがあっても環境（協力してくれる人）が整えば生活のしづらはさは解消されることに気づく。
	35分	視力障がい当事者のお話とビデオ視聴 ・普段の暮らしの様子 ・自身の障がいについて ・趣味や特技について	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいについて知る。 ・相手の立場になって考える心を育てる。
	10分	換気・休憩	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいがあってもできること（趣味・特技・仕事など）を知り、自分たちと同じように地域で前向きに生活する姿を知る。
2時 限目	15分	・当事者の方をガイドする方法の説明 ・当事者による音声PC操作の見学・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無に関わらず、普段の暮らしがより良いものになるために必要なことを考える。
	20分	お話を聞いた感想や質問	
3時 限目	10分	換気・休憩	
	15分	1日のふりかえり ・児童が講座を通して感じたことや気づいたこと、自分にもできることなどを共有 ・「ふくし」について	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の学習を通して、「ふくし」について考える。 ・学習した障がいの他にも様々な障がいがあることを知る。
	30分	あいサポート研修 ・講座全体のふりかえり ・障がいについての理解 ・あいサポート運動について	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の学習を通して、障がいの有無に関わらず、地域で共に暮らしていくために「自分たちにできること」について考える。

※団体のご希望によって、講座のプログラムを1時限から調整することも可能です。

例えば、こんな講座ができます！

○障がいのある方の暮らしを知り、お互い様の地域をつくるためには

障がい当事者の方に普段の生活の様子、これまでの経緯や現在の思いなどをお話いただき障がいの理解を深める他、市が進めている「あいサポート運動」と連携した学習を通し、福祉について考えていきます。

こんな方が講座のお手伝いをしてくれます（一部）



今 順子 さん（趣味：車の運転、水泳）

40代の頃、趣味のテニスで負ったケガが原因で手術。以降、下半身が動かなくなる原因不明の病で車椅子生活となるが、持ち前の運動神経の良さで、全国の障がい者水泳大会で大会新記録を樹立。講座では、車椅子で一人暮らし生活（洗濯やトイレなど）を送る様子や、趣味の水泳の様子などを収めたビデオを視聴し、今さんの日常生活の知りながら思いやりの大切さについて考えていく。

障がい者の水泳全国大会で優勝したり車の運転をして好きな所に行ったりしている前向きな今さんが素敵だった。
(小学5年生)



高橋 良夫 さん（趣味：トロンボーン演奏、和太鼓）

20代の頃、交通事故がキッカケで失明。学生時代から行っていた吹奏楽の経験から、今でも和太鼓チームで鉄締め（小ぶりの太鼓）を担当。太鼓が見えているのではないかと思うような演奏で観客に感動を与えている。講座では、治療院でのお仕事の様子、高橋さんがテレビやPC操作などを行っている様子などを撮影したビデオを視聴しながら、誰もが住みやすいまちについて考えていく。

ちょっとしたお手伝いで目が見えない人も安心して生活できることを知った。まちで見かけたら何かできることが無いかな声をかけてみたい。
(小学4年生)



松本 優子 さん（趣味：料理、和太鼓）

生まれつき目が徐々に見えなくなる先天性網膜色素変性症（夜盲症）を発症。10年前から光も見えなくなる。現在は、主婦として家事をこなし、天ぷらやハンバーグなどの得意料理を家族に振舞っている。講座では、調理の様子（野菜の千切り）を参加者の前で実演。特に小学生からは驚きの声があがる。「不自由なことはあるが不幸ではない」をモットーに幸せのあり方について考えていく。

目が見えなくても主婦として料理や洗濯などコツを掴めばできることがたくさんあり、自分たちと同じように生活していることが分かった。
(小学6年生)



山田 隆 さん（趣味：カメラ撮影、旅行）

幼少期に高熱が原因で、耳が聞こえなくなる。その後、ろう学校で印刷技術を習得し、会社勤務を経て、自ら起業し印刷店を経営する。趣味は、野鳥などの撮影や奥さんで行く旅行。講座では、山田さんの暮らしの様子について、普段から使用する生活用品（振動する目覚まし時計や光で教えてくれるインターホンなど）やコミュニケーション方法などを学びながら、ろうあ者との豊かな生活について考えていく。

手話の他にロパバや身振り、筆談などでろうあ者ともコミュニケーションが取れることが分かった。まちで会ったら積極的に話したい。
(小学5年生)



伊藤 千春 さん（趣味：刺繍、スポーツ全般）

小学生の頃に高熱が原因で、耳が聞こえなくなる。現在は、一般企業で働く傍ら、登別手話の会で手話指導するなど活躍。持ち前の明るさとアクティブな性格で卓球などのスポーツやアイヌ刺繍の制作など様々なことに挑戦している。講座では、伊藤さんの暮らしの様子を知る他、手話や筆談、口話などを通してコミュニケーションを取ることの必要性や相手の気持ちになることの大切さについて考えていく。

障がいの有無に関わらず、互いを理解し合うことの大切さと、耳が聞こえない人に対しても相手に想いを伝えようとする気持ちが大事ということを感じた。
(高校生)

○その他にも様々なテーマで講座ができます。

認知症高齢者 ボランティア活動 社会福祉協議会の取り組み 赤い羽根共同募金 など

申込みから実施までの流れ

①登別市ボランティアセンターへ講座の申請

別紙申請書に必要事項を記入し、ボランティアセンターまでお持ちいただくか郵送にて提出してください。

(申請書は、次のURLかQRコードから本会HPへアクセスし、HP上の「出前福祉講座申請書」をクリックすると表示されます。)

URL

<https://kizuna-shakyo.jp/vc/vdemaef/>

QRコード



②具体的な講座内容を検討

申請書に基づき、依頼者（教員、町内会長、社員など）の講座を依頼する上での目的やねらい、想いなどを確認しながら具体的な学習内容や開催日などをボランティアコーディネーターと検討します。

※開催日は、原則申請日から2カ月後で調整いたします。



③依頼者と講座関係者間による打ち合わせ

依頼者、講師（当事者や関係機関）、ボランティア、ボランティアコーディネーターの4者で、出前福祉講座の実施プログラム（案）を基に講座実施に向けた打ち合わせを行います。

また、講師やボランティアの想いや伝えたいことなども打ち合わせで共有し、講座を実施する上での目的やねらいなどを再度確認していきます。



④出前福祉講座実施

当日、必要な機材（スクリーンやプロジェクターなど）については、本会で貸出します。

※機材の運搬などについては、原則、申請団体で行います。

